

第3回 NIE「わたしの推し記事」コンクール 高等学校 最優秀賞

浦 英里さん（県立西宮高等学校3年）
わたしの推しは、「台湾華僑が繋ぐ思い」です！

掲載記事：毎日新聞 2024年8月9日付朝刊

見出し：戦後80年へ 時代にもまれ落地生根 台湾華僑・鄭さん 弾圧恐れ「遠い祖国」

他人に薦めたいほど、どうしてこの記事に魅力を感じるか、この記事が広まれば社会にどんな変化があるかを書いてください（600字以内）

人は種が落ちた地に根を張る「落地生根」の性質がある。そう新聞の中で語るのは、台湾華僑である私の祖父である。戦禍の中2歳で日本に移住した祖父は、「外国籍」に苦しめられてきた。当時医大生だった祖父は就職する時、「外国籍の人は雇えない」と多くの病院に断られた。医師になるため必死に続けてきた努力がこんなことで無駄になるのか、と憤りを感じたそう。幸いにも研究室の教授が就職先を見つけてくれたことで事なきを得た。人とのつながりを大切にしていた良かったと後に語っている。多くの経験を祖父から聞いて、これからの社会を担う私達に必要なだと感じたことは「歴史を学び、次の世代に繋ぐこと」だ。もし私が祖父の経験を自分の子孫に伝えなければ、過去の苦しみや過ちが繰り返されるかもしれない。コロナの影響で孤立化が進み、現代日本においての人間関係はかつてないほど希薄になっている。この状況でグローバル化が進めば、誤解や争いを生むことになるかもしれない。それを防ぐためにも、私達はまず身近な人から家族のルーツを聞き、次に祖国の歴史や他国との関係を学ばなければならない。歴史に触れることで、自分や相手のことを知り、先人達が起こした戦争の過ちを避けることができると私は思う。「歴史を次代に繋ぐ」ことは、日本に根を下ろした私達台湾華僑の心からの願いであり、日々を忙しく生きる現代人が先代から託された使命なのである。